

春日龍神	書小ノ能	龍女之舞	大鼓	有り
役別	殿東附其他			
前シテ	尉	面—小牛尉又ハ阿古父尉 尉鬚 翁鳥 帽子 襟—淺黄 著附—小格子厚板 白大口 纏狩衣 緞子腰帶 尉扇 萩符		
後シテ	龍神	面—黒髭 赤頭 赤地金緞鉢卷 輪冠 龍鬘 襟—紺 著附—紅入段厚板 赤地 半切 法被 緞紋腰帶 修羅扇 打杖		
ワキ	明惠上人	角帽子 襟—淺黄 著附—小格子厚板 白大口 水衣 緞子腰帶 墨繪扇 數珠		
ワキツレ	從二丁三人僧	角帽子 襟—棹 著附—無地鬘斗目 白大口 縷水衣 緞子腰帶 墨繪扇 數珠		
間狂言	社人	作物 無シ		

春日龍神

名^ナリ^リコ^コレ^レハ^ハ櫻^{サクラ}ノ^ノ尾^ビハ^ハ明^{アキラ}惠^ヱ上^ノ人^ニト^シテ^シテ^シ我^ガ我^ガ我^ガ
 入^イ唐^{タウ}渡^{ワタ}天^{テン}ハ^ハ志^シ有^リル^ルニ^ニ由^リテ^テ御^ミ暇^マ乞^ギフ^フ
 為^タニ^ニ春^{ハル}日^ノノ^ノ明^{アキラ}神^{カミ}ニ^ニ參^マラ^ババ^バヤ^ヤト
 思^{オモ}ヒ^ヒ只^タ今^{イマ}南^{ミナミ}都^トニ^ニ下^シ向^ム仕^セリ^リハ
 愛^{アイ}宕^{トウ}山^{サン}松^{ソウ}が^ガ原^{ハラ}を^ヲ外^{ソト}に^ニ見^ミテ^テ橋^{ハシ}が^ガ
 原^{ハラ}を^ヲ外^{ソト}に^ニ見^ミテ^テ月^{ツキ}に^ニ雙^スの^ノ岡^ノ乃^ノ松^ノ
 緑^{キナンド}の^ノ空^{カラ}も^モ長^{ナガ}閑^カなる^ル都^トの^ノ山^{ヤマ}を^ヲ後^{ノチ}に^ニ
 見^ミテ^テこれ^レも^モ南^{ミナミ}の^ノ都^ト路^ヂや^ヤ奈^ナ良^ラ坂^カ
 越^コエ^テ三^{サン}笠^{カサ}山^{ヤマ}に^ニ春^{ハル}日^ノの^ノ里^{サト}に^ニ着^キま^ス
 に^ニけ^リり^リ春^{ハル}日^ノの^ノ里^{サト}に^ニ着^キま^スに^ニけ^リり
 晴^ハれ^タる^ル空^{カラ}に^ニ向^ムべ^バは^ハ和^ニ光^ニの^ノ先^マ

一合は人事がて神慮に叶ふべき
 だと思ふ召しより合へばけに
 仰せらる事なれども、唐渡天の
 志も佛跡を拜まんと為なれば、何か
 神慮に叶ふべき、これ又仰せとも
 覚えぬものかな、佛在世の時あらば
 こそ見聞の益もあるべけれ、今、
 春日の御山こそ即ち靈鷲山なる
 べけれ、その上上人初参の御時、
 九^カ奈良坂の二の手を合はせて禮拜
 する人間、申すに及ばず心なき
 三笠の森り草木の三笠の森り
 草木り、風も吹かぬに枝を垂れ、
 春日山野に朝立つ鹿までも



皆こくく出てむかひ膝を
 折り角を懐け上人を禮拜する
 かほどの奇術を見ながらも真乃
 學士、何處ぞと問ふ武藏野の
 はてしなな心やたゞ返すく
 我が頼む神のまに留まりて
 神慮とあがめおはしませ神慮を
 あがめおはしませ

七^ナ 御名當社の御事奉く御物依り
 然るに入唐渡天と云ひは、佛法
 流布乃名とせしめ、古跡を
 尋ねん為とて、天台山を拜む
 六^ム 北畷山に参るべし、五臺山の
 望みあらば、吉野龍波を拜すべし



昔^ミ、^ニ靈^ニ龜^ニ山^ニ今^ニ衆^ニ生^ニを^ニ度^ニせん
 とて大明神と示現^トこの山に
 宮^ニ居^テ給^ハば^ハ所^ニち^ニ驚^ニの^ニ際^ニ山^ニ
 とも^ニ春日^ニのお^ニ山^ニを^ニ釋^ニむ^ニべし^ト
 多^ク我^レを^レ知^レ釋^迹年^尾佛^世に出^で。
 夕^やけ^き月^の世^を照^らす^と、
 の^佛神^祿も^あら^たな^り。然^らば
 誓^ひある^慈悲^萬行^の神^德なり。
 遠^ひと^照らす^故な^れや^小機^の
 衆^生の^益な^まき^と悲^しみ^給ふ^御姿[。]
 櫻^路細^輒の^衣を^脱ぎ^鹿弊^{なり}。
 敬^夜と^著つ^四諦^の佛^法を^説き
 給^ひし^鹿野^苑も^此處^なれ^や春^日
 野^に赴^き臥^すハ^鹿の^苑なら^ずや[。]

そのほか當社の有^様なり^山ハ
 三^笠に^影さ^すや^春日^とな^たに
 現^れて^誓ひ^と四^方に^春日^野なり。
 宮^路も^亦ある^や曇^りな^き西^の
 大^寺月^燈み^て先^ぞ懽^る七^大寺[。]
 佛^法の^花も^八重^櫻の^都と^て春^日
 野^乃春^ニそ^のど^けか^りけ^れ
 け^にあ^りが^たき^御奉^がな^耶ら^れ
 と^佛神^化と^思ひ^定め^て一^の度^ハ
 入^唐を^ば思^ひ止^るべ^しと^く
 御^身ハ^如何^{なる}と^て御^名を^名の^り
 給^ふべ^し入^唐渡^天を^止まり^給ふ[。]
 三^笠の^山に^五天^竺を^移し^摩耶^の
 誕^生伽^耶の^成道[。]九^龍龜^峯の^説法[。]

^{地上}神宮 雙林の八滅（八滅）を悉く見せ奉る
 べし暫く此處に待ら給へし本佛
 四手の神乃告我（四手）時風秀行（時風）と
 してかき消すやうに失せにけり
 かき消すやうに失せにけり

○ 是の如き

^{四生}侍從（侍從）
^金神託正（神託）にあらたなる（神託）神託正に
 あらたなる聲の内より先づし

春日の野も金色の世界となりて
 草も木も佛體となるぞ不思議
 なる佛體となるぞ不思議なる

^{地上}時に大地震動する下界の龍神の
 參會（參會）かすば大龍王（大龍王）難陀
 龍王（龍王）跋難陀龍王（跋難陀龍王）安伽羅龍王（安伽羅龍王）
 初修（初修）龍王（龍王）徳又迦龍王（徳又迦龍王）阿那婆

達多龍王（達多龍王）百千眷屬引き連れ
 引き連れ平地に波瀾を立て佛の
 會座に出（會座）外（外）妙法緊那羅王（妙法緊那羅王）また持法
 緊那羅王（緊那羅王）樂乾闥婆王（樂乾闥婆王）樂音
 乾闥婆王（乾闥婆王）婆維阿修羅王（婆維阿修羅王）羅睺
 阿修羅王（阿修羅王）の恒沙の眷屬引き連れ
 引き連れこれも同じく座列せり
 龍女（龍女）が立ち舞ふ波瀾の袖龍女が
 立ち舞ふ波瀾の袖白妙なれや
 わだの原乃（わだの原乃）拂ふハ白玉立つハ
 露乃（露乃）空色も映る海原や伸行く
 ばかり舟の際舟の佐保の川面に
 浮かみ出づれば大龍王（大龍王）

大龍王地の冠を傾け
 所ハ春日野乃月の三笠の雲に
 上り飛火の野守も出て見よ
 摩耶の誕生鷲峯の岩に雙林乃
 入滅悉く終りてこれまでなり
 明惠上人唐ハ止るべし
 後天ハ如何に渡るまじ
 佛跡ハ尋ねまじや尋ねても
 尋ねてもこの上の雲に飛りて
 龍女ハ南方に飛び去り行けば
 龍祥ハ猿澤の地乃青波踏立て
 踏立てその女千尋の大蛇と
 なりて天にむらがり地に蟠りて
 池水をかべして失せにけり



淡路		能	祝言之式	本鼓	有り
役別		装束附其他			
前シテ	尉	面 小牛角 尉髮 襟 淺黄 著附 小格子厚板 白大口 紺水衣 緞子 腰帶 尉扇 杵			
後シテ	伊弉諾尊	面 郡部男又 天神 黑垂 赤地金緞 鉢卷 透冠 襟 淺黄又 白 著附 紅白段厚板 白大口又 半切 袷符衣 繡紋腰帶 神扇			
ソレ	男	直面 襟 赤 著附 無地鬘斗目又 無紅厚板 白大口 紺水衣 繡紋 腰帶 男扇 杵			
ワキ	臣下	大臣烏帽子赤上頭掛 襟 紺 著附 厚板 白大口 袷符衣 繡紋腰帶 男扇			
ワキツレ	從者 (二三)	大臣烏帽子頭黄上頭掛 襟 紺 著附 厚板 白大口 赤地袷符衣 繡紋 腰帶 男扇			
間狂言	里人	作物 無			